

産学連携におけるインターンシップ：  
先行研究の考察および今後の研究方向性

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 一橋研究編集委員会 公開日: 2025-10-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 李, 建儒, 楊, 佩蓉 メールアドレス: 所属: 琉球大学, 義守大学
URL	<a href="https://doi.org/10.15057/0002061087">https://doi.org/10.15057/0002061087</a>

# 産学連携におけるインターンシップ ー 先行研究の考察および今後の研究方向性ー

李 建 儒<sup>(1)</sup>  
楊 佩 蓉<sup>(2)</sup>

## 要旨

本論文では、インターンシップに関する先行研究を検討し、特に、インターンシップにおける教員・学生・企業との関係性、インターンシップによる企業と社員への影響、インターンシップ制度に関する日本と台湾の比較分析を明らかにする。また、インターンシップに関する今後の研究方向性を、台湾における大学側のキャンリアセンターの役割、台湾半導体産業に関するインターンシップ計画への検討などを説明する。

1. はじめに
  2. インターンシップに関する先行研究の検討
    - 2-1. インターンシップにおける教員・学生・企業との関係性
    - 2-2. インターンシップによる企業と社員への影響
    - 2-3. インターンシップ制度に関する日本と台湾の比較分析
  3. インターンシップに関する今後の研究方向性
    - 3-1. 台湾における大学側のキャンリアセンターの役割
    - 3-2. 台湾半導体産業に関するインターンシップ計画への検討
- 参考文献

(1) 琉球大学国際地域創造学部経営プログラム 准教授  
(華東師範大学台湾研究院 特聘研究員)

(2) 義守大学応用日本語学科 (義守大学日本研究センター長) 准教授

## 1. はじめに

本論文では、近年の産学連携におけるインターンシップに関する研究の動向を検討し、さらに、インターンシップに関する今後の研究方向性について試論することを目的とする。

本論文の構成は以下の通りである。第2節では、インターンシップに関する先行研究を検討し、特に、インターンシップにおける教員・学生・企業との関係性、インターンシップによる企業と社員への影響、インターンシップ制度に関する日本と台湾の比較分析を明らかにする。第3節では、第2節を踏まえ、インターンシップに関する今後の研究方向性を、台湾における大学側のキャリアセンターの役割、台湾半導体産業に関するインターンシップ計画への検討などを説明する。第4節では、本論文のまとめである。

## 2. インターンシップに関する先行研究の検討

本節では、まず産学連携の人材育成に関する先行研究を鳥瞰し、その人材育成に影響を与える諸要因を説明したことで、次の重要な研究課題を述べる。

### 2-1. インターンシップにおける教員・学生・企業との関係性

先行研究（坂本・峯・日下部・深瀬・荒木・福田, 2008）によれば、大学教育は理論や基礎的技術の習得に重点を置いて人材を育成してきたが、その育成成果と企業・産業側のニーズとの間にはギャップが存在していると指摘されている。

同研究（坂本ほか, 2008）では、そのギャップを解消する手段として産学連携によるインターンシップの導入が重要であるとされ、インターンシップの効果を学生・教員・企業の三者の視点から分析することが有益であると論じられている。

たとえば、学生はインターンシップを通じて、実務的な知識の習得、コミュニケーションの重要性の理解、学習意欲の向上などを評価している（坂本ほか, 2008）。また、教員は企業訪問を通じて、企業担当者との連携を深め、学生のインターンシップへの意欲を促すことができる。企業にとっては、学生がインターンシップで作成した成果物を実際に導入することが重要な意義を持つとさ

れている（坂本ほか, 2008）。

## 2-2. インターンシップによる企業と社員への影響

一方、先行研究（松坂・山本・小野・野田, 2019）では、インターンシップは企業にとって、業務内容の見直し、社員の訓練、組織意識の活性化に好影響を及ぼすと報告されている。

さらに、亀野（2021）は、インターンシップを通じて企業が新卒採用を促進できると同時に、離職防止にもつながるメリットがあると指摘している。

また、三保・松尾・寺田（2022）の研究では、新入社員を対象に、インターンシップ経験と入社後の適応状況、プロアクティブ行動との関係が検証されている。

同研究では、職務満足度、情緒的コミットメント、組織への定着感といった項目を用いて入社後の適応度を測定し、さらに、職務の理解、組織文化の理解、フィードバックの模索、ネットワーク構築の4項目を通してプロアクティブ行動を評価している。結果として、長期的なインターンシップは新入社員の適応を促進する効果があることが示された（三保ほか, 2022）。

## 2-3. インターンシップ制度に関する日本と台湾の比較分析

近年、住田（2021）は、短期インターンシップが学生の大学での学習を妨げる可能性があることを指摘し、学業との両立を図る必要性を論じている。また、グローバル人材の採用においては、インターンシップ制度の国際化が不可欠であると述べている。同研究では、大学のキャリアセンターが政府の補助金を活用して、教育志向型のインターンシップ計画を主導することの有益性が強調されている。

一方、國府（2024）は、日本が従来のメンバーシップ志向型の採用制度からジョブ志向型の制度へと移行しつつある点を踏まえ、台湾のホテル業界を対象に、ジョブ志向型のインターンシップについて分析している（濱口, 2021; 國府, 2024）。

同研究では、大学側および企業側によるインターンシップ参加者の評価方法に関する聞き取り調査を実施しており、その結果、企業側はインターン経験者を採用する際、当該経験を通じて企業文化を理解し、即戦力として貢献できるかどうかを重視していることが明らかとなった（國府, 2024）。

### 3. インターンシップに関する今後の研究方向性

#### 3-1. 台湾における大学側のキャリアセンターの役割

前節に、先行研究ではインターンシップに関する多角的な知見が蓄積され、当該研究領域に大きく貢献している。しかしながら、台湾におけるジョブ志向型のインターンシップにおいて、大学側キャリアセンターがどのような組織体制で、どのような役割を果たし、学生のインターンシップ効果をどのように高めているのかについては、検討する余地がある（表1）。

そこで本論文では、大学キャリアセンターの役割に焦点を当て、産学連携における人材育成のメカニズムを解明することを、今後の研究方向性として提唱する。

表1：インターンシップやキャリアセンターに関する本論文の理論的位置づけ

研究領域	分析対象	日本	台湾
インターンシップの制度とその効果		坂本ほか（2008）、濱口（2021）、三保ほか（2022）、亀野（2021）、松坂ほか（2019）など	國府（2024）など
キャリアセンターの役割		住田（2021）など	本論文

（出所）上記の各論文に基づいて筆者作成

#### 3-2. 台湾半導体産業に関するインターンシップ計画への検討

先行研究（佐藤，2016）では、台湾半導体産業の歴史的発展とその分業体制の構築について説明されており、製造および設計に関する市場行動が分析されている。また、岸本（2016）は、TSMCとUMCを比較対象として、技術開発、生産能力、設備投資、特許取得数などの要因を分析し、それらが企業の業績格差に与える影響を明らかにしている。さらに、楊・阿部（2019）の研究では、半導体産業における計測機器メーカーとTSMCなどの取引関係を詳細に検討し、信頼関係の重要性が指摘されている。

これらの先行研究は、台湾の半導体産業に関する学術的知見の蓄積に大きく貢献してきたが、インターンシップを通じた人材育成プロセスと企業の成功との関係性については、まだブラックボックスのままである。

したがって、今後の研究では、台湾の半導体産業において、企業が大学との

インターンシップ連携を通じて即戦力となる人材をどのように確保し、それが企業の経営安定や持続的成長にどのように寄与しているのかを明らかにする必要がある。

## 参考文献

- 濱口桂一郎 (2021).『ジョブ型雇用社会とは何か —正社員体制の矛盾と転機』岩波新書.
- 亀野淳 (2021).「企業側からの視点によるインターンシップ研究の発展可能性に関する一考察」『インターンシップ研究年報』24, 61-69.
- 岸本千佳司 (2016).「半導体ファウンドリ・ビジネスにおける業績格差と成功要因 —台湾TSMCとUMCの比較を通して—」『国際ビジネス研究』8 (1),27-43.
- 國府俊一郎 (2024).「ジョブ型雇用社会におけるインターンシップの役割についての考察 —台湾の企業と大学のヒアリング調査分析から—」『アジア経営研究』30 (1),33-46.
- 坂本憲昭・峯恒憲・日下部茂・深瀬光聡・荒木啓二郎・福田晃 (2008)「大規模な産学連携による高度ICT人材育成に向けての取り組み」『情報処理学会論文誌』49 (8), 2830-2842.
- 住田曉弘 (2021).「大学キャリアセンターから見る インターンシップおよびキャリアセンターの果たすべき役割」『日本労働研究雑誌』733, 31-40.
- 三保紀裕・松尾智晶・寺田盛紀 (2022).「インターンシップ経験による入職後のプロアクティブ行動と初期適応の差異 —新入社員を対象とした検討—」『京都先端科学大学経済経営学部論集』4 (4), 117-130.
- 松坂暢浩・山本美奈子・小野浩幸・野田博行 (2019).「中小企業団体と大学の産学連携インターンシップ—企業調査による満足度および人材育成の観点から—」『産学連携学』16 (3), 55-63.
- 佐藤幸人 (2016).「台湾半導体産業の発展における後発性と革新性」『アジア経済』57 (3), 50-81.
- 楊英賢・阿部嘉隆 (2019).「半導体産業における組織間関係の構築 —TSMCと日系装置メーカーJ社の取引関係の事例分析—」『国際ビジネス研究』11 (2),49-65.

## Internships in Industry-Academia Collaboration: A Review of Previous Research and Future Research Directions

Chien-Ju Lee<sup>(3)</sup>  
Pei-Jung Yang<sup>(4)</sup>

### Abstract

This study reviews prior research on internships, with particular emphasis on three key areas: the relationships among faculty members, students, and companies within the context of internship programs; the impact of internships on companies and their employees; and a comparative analysis of internship systems in Japan and Taiwan. In addition, the paper outlines potential directions for future research, including an examination of the role played by university career centers in Taiwan and a consideration of internship initiatives within the Taiwanese semiconductor industry.

---

(3) University of the Ryukyus, Faculty of Global and Regional Studies, Management Program, Associate Professor (East China Normal University, Institution of Taiwan Studies, Research Fellow).

(4) I-SHOU University, Department of Applied Japanese, Associate Professor